

平成29年6月22日

## 事業企画書

団体名	特定非営利活動法人 外国語ボランティア・コートーク(略称:NPO LVC)
事業名	在日外国人子女に対する学習、日本語支援事業

## 1. 現状・地域課題

団体の考える地域課題、ニーズについて具体的に記入してください。

現在、在日外国人は増加傾向にあり、江東区内だけでも平成28年1月現在24000人を超える在住者を数える。(平成28年1月現在)これは江東区の総人口の約5%を占める割合である。これに伴い、区内の学校に通う外国人子女の数も増加することが予想される。彼らは当然日本の言語、文化環境の中での学習を余儀なくされる訳であるが、一部の生徒については必ずしもこうした言語、文化環境に適応しているとは言えない状況もある。(区教育委員会によれば平成28年度156名が日本語指導を要するとされる)こうした生徒達には区の提供する言語支援策はもちろん、それ以上に彼らが日常的に感じる言語・文化的なバリアを軽減、払拭するための支援を提供することが求められる。特に中国語を母語とする中国語圏の生徒の数が50%以上を占めると思われ、他のアジア語圏からの生徒も含めて彼らに対する学習面或いは言語面での支援の充実が求められている。

事業を実施することで、どのような成果(効果)がありますか。目標とする状態・成果を記入してください。

異なる言語、文化環境下に置かれた児童は、特に学習言語の取得に困難を感じ、ともするとそれに起因する疎外感を味わうことになりかねない。不幸にしてそれが講じれば落ちこぼれとなり、最悪の場合非行化することにもつながる。そうした事態に陥ることを防ぎ、学習に興味を持たせ、上級校への進学を目指せるような自信をつけてもらう。以て、将来日本の社会、或いは母国にも資する有為な人材を育てる。その為に所属校や教育委員会、或いは江東区国際友好連絡会(IFC)とも密な連絡、協力関係を持ち、日本の文化、社会と齟齬を来さない人材を育成することを目標とする。本事業の効果については出席児童数、母語の種類などの記録をつけることは勿論、半年に一度程度の生徒並びにその保護者に対してアンケートを実施して満足度等を計測する予定。

## 事業内容

上記現状に鑑みて、江東区でも様々な日本語支援プログラムが提供されている。また、各団体が独自に日本語教室などを開催しているが、それを補完する意味で、我々LVCは外国人子女が異文化、言語の壁を乗り越えて学校の授業の理解を助けるべく学習指導の補助を行う。その際に必要に応じて日本語指導も実施する。基本的には週1～2回の教室開催で、ボランティア活動として、参加する生徒には原則無償で指導を行う。区の行っているプログラムについても要請があれば中国語、英語などのネイティブスピーカーを提供することも可能。また、時によって生徒達にそれらネイティブスピーカーによる接触機会を提供して安心感を醸成することも実施する。また、区が実施している放課後学習教室にも外国人が積極的に参加できるように通訳などの支援を行うことも実施したい。更に必要に応じて生徒の保護者に対しても学校との間のスムーズなコミュニケーションのために通訳などの支援も行う。

## 実施体制

本年4月現在、ボランティア団体LVCには会員総数で約70名が在籍し、その内25名が本事業に参画している。同25名中、5名を中心メンバーとして本活動を推進する。25名の中には日本語指導の有資格者、外国人に対する学習指導の経験者が其々3名、2名含まれている。また、英語の話者が12名、中国語話者5名、複数外国語話者が3名加わっている。支援実施場所は区立第三砂町中学校の学校支援室を中心として行うが、要請があれば要請のあった学校へスタッフが向向いて学習支援を行うことも可能。将来、生徒数が増えまた、居住域も広がってきた場合には江東区の南側にも教室を設けることを考えている。スタッフについても、キャンパティアーが不足するようなら、区内の大学生(武蔵野大学)等にも支援を要請する。支援は学校単位ではなく希望する区内在住の外国人小中学校生徒は誰でもが対象。基本的には生徒と1対1の個別指導体制で、一回約1.5時間で実施する。教材は学習支援用の教材や日本語の基礎教材を使用するが生徒の在籍する学校とも打ち合わせて適切な教材を使用する。また、必要に応じてタブレットや電子辞書なども使用する。クラスごとの出席簿、学習記録もつけ、更に生徒の行き帰りの交通リスクも含めた危険を担保する傷害保険の付保は必須とする。本事業は息の長い活動を目指しており、仮に実施中に各種困難が生じようとも粘り強く継続的に取り組む様、スタッフには徹底周知している。

事業費(別紙収支予算書に明細を記入してください。)

収入	自己資金	300,000 円
	事業収入	0 円
	区負担額	1,612,500 円
支出		1,912,500 円

スケジュール(別紙事業実施スケジュールに詳細を記入してください。)

#### 4. 協働の必要性

協働の必要性や、協働で実施することで得られる効果について記入してください。区、団体の役割分谷について記入してください。

区教育委員会によれば区内の日本語指導を必要とする児童生徒数は過去数年間にわたり漸増傾向にあり、平成28年度には156名にも上ることが明らかになっている。今後、日本の少子化、労働力不足事態の招来に鑑みれば、在日外国人は増加することこそあれ減少することは考えにくい。これに伴い外国人児童数も増加することが必然と考えれば、これらの児童に対する学習、言語支援体制の拡充が求められることは必至である。現状、区、或いは各種団体が種々の日本語支援プログラム等を実施してこうした事態に対応せんとしているが、例えば支援期間の終了後のケアがともすると行き届かない事態も生じる可能性がある。しかし、児童に対しては支援期間後も継続して支援を続けていくことが望まれる。我々のようなNPO或いはボランティア団体はこのような行政の手が届きにくいところを細かく補完することを大きな目標とし、且つ、小回りを利かせて活動することを本意と心得ている。具体的には行政、学校などと連携して外国人生徒達を継続的に支援し続けることを目指している。また、在日外国人の多様化に伴い必要とされる言語も多種に亘ることが予想される。こうした少数言語に対して、行政が手掛けにくい場合もLVCはその人的ネットワークを通じて対応することが可能。更に学習支援についてもLVCは生徒の在籍する学校やともすると言語的な適応が不十分なため、学校との意思疎通に困難をきたしている保護者とも密な連携を取って通訳などでこれを支援することが可能。こうした種々の曲面で行政を補完し互いに協働する意義は大きいと考える。こうした協働作業により、外国人子女が日本の言語、文化環境により良く適応し、以て将来日本にとり、更には母国にとっても有為な人材に育つ効果が期待できる。最後に区との協働事業によってLVCに信用が担保されることになり、将来スタッフの更なるリクルートを要することになったとしても、ボランティア人材の確保が効果的に図れるであろう事もLVCにとって大きなメリットとなるものと思料する。

#### 5. 事業の展望・今後の活動展開

現在当団体にとっても本事業は始まったばかりで、スタッフも学習支援、日本語指導の経験者のノウハウを共有しつつ、事業を推進しているのが現状である。場所も区立第三砂町中の教室をお借りして原則週2回（水曜日、土曜日）クラスを運営しているのが実情。生徒も第三砂町中の近隣の学校からの小中学生中心で、必ずしも本事業が広く認識され、定着している訳ではない。しかし、区内在住者は今後ともアジア圏を中心として増加することは確実でそれに伴う子女の数、そして学習面、言語面での支援を必要とする生徒数が増加し、且つ多様化することも確実である。我々LVCは既にスタッフのキャパシティー不足事態、生徒の多様化に伴う多言語対応については対応の目途をつけており、開催場所の地域的な広がりについても検討を開始している。更には生徒たちの保護者と学校との円滑なコミュニケーションを可能とするための支援についても要請があれば対応可能な体制にある。ただ、現状資金面での脆弱性をカバーするには至っておらず、タブレットや電子辞書等を使った教育支援の高度化の推進には聊かの不安を感じている。現状の資金を活用できる範囲で有効に活用することは勿論だが、基本的には現在、本事業に関わるスタッフのボランティア精神に多くを頼らざるを得ないのが実情である。ただ、教育支援事業という性格上、開始した以上は生徒に対する責任が生じており、今後、困難に直面してもそれを乗り越える強い意志を以て目的を完遂すべく長く継続的に取り組んでいく所存である。